

(仮称) 中野区子どもの権利に関する条例の考え方に対する主な意見の概要およびそれに対する区の考え方

NO	意見の概要	区の考え方
前文		
1	「子どものみなさん、迷うことや困ったことがあったら、周りの大人に相談してみてください」との記載があるが、子どもが困ったときに相談する相手として一番多いのは友達であるため、「周りの友達や大人に相談してみてください」と記載してはどうか。	前文は子どもも含め多くの人に読まれる箇所であるため、子どもが読んだときに勇気づけられるよう、大人から子どもに対するメッセージを記載している。 子どもの相談する相手として友達も重要であるが、子どもの意見、考え、思いを受け止め、子どもの立場に寄りそい、子どもにとって最も善いことを一緒に考えるという大人の役割を子どもに伝えることを趣旨として、記載している。
2	子どもへの呼びかけの文章は、前文に馴染まないため不要だと思う。	
3	「日本は、世界の国々と、子どもの権利条約を結んでいます」との記載があるが、「児童の権利に関する条約」という正式名称を記載すべきではないか。	「児童」という用語は、小学生を指す言葉としても使用されていることから、条約の対象年齢(18歳未満)に誤解が生じないように「子どもの権利条約」としている。 なお、2(6)において、用語の意味として条約の正式名称を記載している。
第1章 総則		
2 用語の意味		
4	(4)「育ち学ぶ施設」について、幼稚園は「区内の学校、専修学校または各種学校」、「児童福祉施設その他子どもが育ち、学ぶために利用する施設」のどちらに含まれるかが分かりづらい。	幼稚園については、「区内の学校、専修学校、または各種学校」に含まれる。
4 区役		
5	区の支援について、「保育園における、子どもの権利保障を担う人材の確保に対する支援」など、支援の内容を具体的に記載してはどうか。	区は、子どもの権利の保障について、区民、育ち学ぶ施設および団体の活動を支援することを記載しており、これを踏まえて、様々な支援策を具体化していく。
6	自治体を越えて取り組んでいくことが重要であるため、国、東京都、他の区市町村等に必要な協力を求めるだけでなく、区が協力を行うことも記載してはどうか。	子どもの権利が自治体を越えて広く保障されることを目指し、国、東京都、他の区市町村等に働きかけを行うことを趣旨として記載している。 他の自治体等から求めがある場合においては、必要な協力を行っていく。
6 育ち学ぶ施設および団体の役割		
7	子どもが多くの時間を過ごす学校の役割が重要である。育ち学ぶ施設に、小学校や中学校が入っていることが分かりづらい。	学校の役割が重要であることから、育ち学ぶ施設および団体の役割を記載している。小学校、中学校については、2(4)の「学校」に含まれている。
7 事業者の役割		
8	事業者が、その従業員が子どもの権利を保障することができる環境を整えるためには、区の支援が必要ではないか。	事業者における環境整備に当たっては、区の支援が必要となると考えており、その趣旨も含め、4(2)において、区の役割を記載している。
8 中野区子どもの権利の日		
9	11月20日を子どもの権利の日とする理由が分からないため、あわせて理由も記載した方が良いのではないか。	「中野区子どもの権利の日」は、国際連合総会において子どもの権利条約が採択された日である11月20日としている。ご指摘を踏まえ、11月20日とする理由を記載する。
10	広く区民等の参加を求めるのであれば、子どもの権利の日は日付(11月20日)ではなく、「〇月の第〇土曜日」とした方が良いのではないか。	なお、啓発事業については、この日に限定するのではなく、この日を中心に区民の参加しやすさも考慮しながら、様々な事業を実施していく。

NO	意見の概要	区の考え方
第2章 子どもの権利の保障		
11	家庭や育ち学ぶ施設および団体の活動、地域社会において子どもの権利を保障していくためには、区の役割が重要となる。「可能な限り」などと記載されているが、もう少し強い表現とすべきではないか。	子どもの権利を保障していくためには、区の役割が重要であると認識している。ご指摘を踏まえ、表現を修正する。
9 あらゆる場面における権利の保障		
12	暴力を受けないことは、学校でも教わっており、当たり前のことである。(※)	区に関わる全ての人がこのことを理解し、協力しながら子どもの権利を保障していくことが大切であると考えている。
13	「子どもの意見等を尊重するとともに、その意見等がどのように尊重されているかを子どもに分かりやすく説明するよう努める」との記載があるが、これを行う主体に「保護者」は含まれないのか。	保護者については、区民に含まれるものであるが、ご指摘を踏まえ、このことが分かりやすくなるよう、2(3)の区民の定義を修正する。
14	旅行先を決めるときや買い物に行ったときなど、子どもに関することを行うときは、子どもの意見を聞いてほしい。(※)	本条例の基本理念として、子どもは意見等を表明することができ、自分に関係のあることについてその意見等が尊重されることを記載している。こうした考え方を広め、子どもの意見が尊重されるまちを目指していく。
15	「学び、休み、および遊ぶこと」との記載があるが、子どもにとって、遊びの保障は非常に大切である。子どもの主体性を大切にするのであれば、子どもの遊びに関して、強調した表現にしてはどうか。	子どもにとって、学ぶことも、遊ぶことも、休むこともそれぞれ大切であると考えており、あらゆる場面において、特に保障される権利として記載している。
16	勉強したり、遊ぶ時間は大切であるが、休む時間も大切である。(※)	
17	失敗を笑う人がいるが、それはおかしい。「失敗をしてもやり直せること」が大切である。(※)	子どもが失敗を恐れずにチャレンジできるよう、環境づくりを進めていく。
18	大人が隠し事をするように、子どもにとって秘密にしたいことがある。(※)	子どもの発達に応じてプライバシーが尊重されることを記載しており、育ち学ぶ施設および団体や家庭と連携し、取組を進めていく。
19	性別などによって、差別されると感じることもある。また、差別される人は自分が差別されたらどう感じるか考えるべきである。(※)	性別だけでなく、家庭の環境、経済的な状況、社会的身分、国籍、人種、民族、文化、障害の有無、性自認、性的指向等により差別されないことを記載しており、育ち学ぶ施設および団体や家庭と連携し、取組を進めていく。
20	「子どもだから食べてはいけない」と言われることがあり、理由を説明してほしいと感じた。(※)	子どもは意見等を表明することができ、自分に関係のあることについてその意見等が尊重されることや、その意見がどのように尊重されたかを分かりやすく説明することなどを記載している。
10 家庭における権利の保障		
21	子育てにおいては、保護者が追い詰められている事例もある。保護者に寄りそいながら、取組を進めてほしい。	本条例は、まち全体で子どもの成長を支え、子どもの権利を保障するまちを目指すものである。子どもおよび保護者に対して区として支援をすることが重要であり、その趣旨について10(3)に記載している。
11 育ち学ぶ施設および団体の活動における権利の保障		
22	支援が必要な子どもへの権利保障についても明記してほしい。あるいは、支援が必要な子どもについて、一つ項目として設けてどこかの章に入れることも考えてほしい。	本条例は、支援が必要な子どもを含む、全ての子どもの権利を保障することを目指しているものである。条例に基づき、だれ一人取り残されることなく権利が保障される社会の実現に向けて、取組を進めていく。
第3章 子どもにやさしいまちづくりの推進		
13 子どもの意見等の表明および参加		

NO	意見の概要	区の考え方
23	「子どもの意見等の表明と参加をうながすため、子どもがその意味や方法について学び、必要な情報を得ることができるよう努める」との記載があるが、これを行う主体に「保護者」は含まれないのか。	保護者については、区民に含まれるものであるが、ご指摘を踏まえ、このことが分かりやすくなるよう、2（3）の区民の定義を修正する。
1 4 子ども会議		
24	「子ども会議」は、子どもに関する取組であることから第3章ではなく、第4章に入れた方が良いのではないか。	「子ども会議」は、子どもにやさしいまちづくりを推進するための「子どもの意見等の表明および参加」の仕組みの一つであることから、第3章に記載している。
25	「区長は、子どもに関する区の計画その他区長が必要と認めることについて、子ども会議に参加する子どもの意見等を求めるものとします」との記載があるが、会議の議題を区長が決めるのでは意味がないのではないか。	区からの求めによるものに限らず、子ども会議に参加する子どもが必要と認めることについて議題とすることを考えており、その趣旨について14（6）に記載している。
1 5 虐待、体罰等の防止		
26	「子どもが虐待、体罰等を受けることなく、すこやかに育ち、安心して暮らすことができるよう努めなければなりません」との記載があるが、これに取り組む主体として、区以外の主体は含まれないのか。	区のみでなく、様々な主体が虐待、体罰等の防止に取り組むことが重要であると考えており、ご指摘を踏まえ、表現を修正する。
27	「虐待、体罰等の予防と早期の発見に取り組むものとします」との記載があるが、発見後の早期対応についても、記載すべきではないか。	虐待、体罰等を受けた子どもに対し、すみやかかつ適切に対応することは重要であると考えており、その趣旨について15（4）に記載している。
28	保護者は虐待だと認識せずに虐待している場合もあるため、児童虐待の定義を記載してはどうか。	児童虐待の防止等については、児童虐待の防止等に関する法律の定義を踏まえ、取組を進めていくことを考えている。
1 6 いじめその他の権利の侵害の防止		
29	「子どもに対するいじめその他の権利の侵害の予防と早期の発見に取り組むものとします」との記載があるが、発見後の早期対応についても、記載すべきではないか。	いじめその他の権利の侵害を受けた子どもに対し、すみやかかつ適切に対応することは重要であると考えており、その趣旨について16（3）に記載している。
30	いじめその他の権利の侵害の防止に取り組む主体として、区、保護者、育ち学ぶ施設および団体が記載されているが、区民は含まれないのか。	区のみでなく、様々な主体がいじめその他の権利の侵害の防止に取り組むことが重要であると考えており、ご指摘を踏まえ、区民を追加する。 なお、保護者は、区民に含まれるものであるため、表現を修正する。
1 8 有害または危険な環境および情報からの保護		
31	有害または危険な環境や情報からの保護に取り組む主体として、有害、危険な環境を発生させているのは大人であるため、区民も含めた方が良いのではないか。	区のみでなく、様々な主体が有害または危険な環境や情報からの保護に取り組むことが重要であると考えており、ご指摘を踏まえ、区民を追加する。 なお、保護者は、区民に含まれるものであるため、表現を修正する。
第4章 子どもに関する取組の推進および検証		
2 1 子どもに関する取組の推進計画の策定		
32	子どもに関する取組の推進計画と「子ども会議」との関係性を教えてほしい。	区は、推進計画を定める場合、子どもや区民の検討を反映させるよう努めるものとし、その手段の一つとして、子ども会議で意見を聴くこととしている。
第5章 子どもの権利の相談および侵害からの救済		

NO	意見の概要	区の考え方
2 4 (仮称) 中野区子どもの権利救済委員の設置		
33	悩み事について、保護者や先生に話すと大事になるので相談しづらい。保護者や先生ではない大人に、話を聞いてもらえ、一緒に解決策を考えてくれるような場所があると良い。(※)	救済委員は、子どもの話を聞き、子どもと一緒に考え、子ども自身がどのように解決をしたいのかを尊重してくれる存在である。他の人に知られたくない相談については、秘密が守られるような体制を検討していく。
34	すでにある子ども関係の相談窓口とのすみ分けや性質の違いを教えてください。また、虐待、いじめ、貧困などの目に見える権利侵害だけでなく、様々な子どもの困難に対応してほしい。	既存の相談窓口は特定の相談内容を取り扱うものが多いが、本条例における子どもの権利救済制度は、子どもの権利の侵害からの救済と権利の保障を図ることを目的とし、子どもが困っている状況を端緒として、必要な助言や支援等を行うものである。 また、救済委員は、子どもの最善の利益を実現するため、子どもの意見に耳を傾け、子どもに寄りそいながら支援等を行っていく。
35	子どもの権利救済委員の職務について、「次に定めることを担任します」という記載があるが、「次に定めることを担当します」の方が良いのではないか。	より分かりやすい記載とするため、ご指摘を踏まえ、表現を修正する。
36	行政不服審査法で適用除外としている「学校、講習所、訓練所又は研修所において、教育、講習、訓練又は研修の目的を達成するために、学生、生徒、児童若しくは幼児若しくはこれらの保護者、講習生、訓練生又は研修生に対してされる処分」について、同法第8条で規定する「特別の不服申し立ての制度」として、本条例の権利救済委員を規定すれば、仮に委員の意見（「裁決等」）に子どもが不服である場合、裁決等に関しては行政事件訴訟法あるいは国家賠償法に基づいて裁判で争えることになり、非常に優れた条例になると思う。	第5章に規定する「子どもの権利の相談および侵害からの救済」については、行政不服審査法で定める「行政庁の違法又は不当な処分その他公権力の行使に当たる行為」にかかわらず、あらゆる場面において、子どもの権利の侵害からのすみやかな救済と子どもの権利の保障を図ることを目的とするものである。
2 5 救済委員の職務の執行		
37	相談することは勇気がいることなので、相談方法を工夫する必要がある。(※)	電話のみでなく、電子メールなどの相談方法も検討していく。また、気軽に相談に来られるような相談窓口づくりも検討していく。
38	「子どもが救済委員に相談等をしやすい環境を整えるよう努めるとともに、救済委員の職務の執行に協力するよう努める」との記載があるが、主体の中には区も含まれるのではないか。	区は、救済委員の職務の執行を確保するために必要な協力および支援を行うことを考えており、その趣旨について25(6)に記載している。
2 8 財政上の取組		
39	「財政上の取組」が記載されたことにより、「子育て先進区」実現に向けた取組が、実行性のあるものになると思う。必要な財政措置を行い、取組を進めて欲しい。	必要な財政措置を行うことにより、子どもに関する取組を推進していく考えである。 なお、この趣旨を踏まえ、第5章から第4章の「20 子どもに関する取組の推進」に記載箇所を変更する。
その他		
40	熟語の一部にふりがなが振ってあり、読みづらい。ふりがなを振る基準が分からない。	小学校で習わない漢字についてはふりがなを振っていたが、様々な人が理解しやすいよう、ご指摘を踏まえ、全ての漢字にふりがなを振るように修正する。
41	漢字が苦手な子どももいるので、全ての漢字にふりがなを振った方が良い。(※)	

NO	意見の概要	区の考え方
42	条例制定後の周知が重要になる。広く区民を対象としたリーフレットに加え、子どもの年齢や成長にあわせたリーフレットを作成し、普及啓発を行ってほしい。	条例制定後に、子どもや大人に対し、広く普及啓発を図っていくことが重要であり、リーフレット等の広報物について検討していく。
43	子ども自身が、子どもには権利があるということを知らることが大切である。学校の授業の中で取り扱うべきである。(※)	子ども自身が、子どもの権利を知ることは大切であると考えている。子どもの年齢や成長にあわせた普及啓発について、リーフレットの作成や学校との連携について、様々な手法を検討し、実施していく。
44	どうしたら子どもがワクワクできるか考えてほしい。子どもの「養護」については詳しく記載されているが、「育成」について書かれていない。子どもの権利の明るい部分に目を向けて、「育成」についてもっと記載してはいかがか。	本条例は、子どもの権利の尊重の理念を共有し、それぞれの生活および活動に生かすことで子どもの権利を保障することを目的とするものである。
45	子どもと一括りにされることが多いが、子どもでも乳幼児と小学生では異なる。公園遊具や図書館の本は、大部分が小さい子ども向けで、小学校高学年が楽しめるものが少ない。 また、本を買うときは、子どもの意見を聞いてほしい。(※)	本条例に基づき、公園や居場所の整備、図書館の充実などを進めていくが、子どもと一括りにせず、子どもの年齢や成長を考慮しながら、また、子どもの意見を聞きながら、取組を進めていく。

○ 意見の概要は、区分整理の関係から、提出された意見の分割や同趣旨の意見等の統合を行っている場合がある。また、個別性の高い意見については掲載を省略している。

○ 子どもからの意見については、意見の概要に(※)を表示している。